



まちで見かけたあの人、 もしかしたら認知症かも…

- ポツとした表情や険しい表情で歩いている
- 季節に合わない服装だったり、衣類や履物がちぐはぐだったりする
- バス停や公園のいすなどに長時間座り続けている
- 信号を無視して歩いている
- わき目もふらず、一目散に歩いている

声をかけるときの

7 ポイント



1 まずは見守る

認知症と思われる人に気づいたら、本人や他の人に気づかれないように、一定の距離を保ち、さりげなく様子を見守ります。近づきすぎたり、ジロジロ見たりするのは禁物です。

2 余裕をもって対応する

こちらが困惑や焦りを感じていると、相手にも伝わって動揺させてしまいます。自然な笑顔で対応しましょう。

3 声をかけるときは1人で

複数で取り囲むと恐怖、心をあおりやすいので、できるだけ1人で声をかけます。

4 後ろから声をかけない

一定の距離で相手の視野に入ったところで声をかけます。唐突な声かけは禁物。「何かお困りですか」「どうなさいました?」「こちらでゆっくりどうぞ」など。

5 相手に視線を合わせてやさしい口調で

小柄な方の場合、体を低くして視線を同じ高さにして対応します。

6 おだやかに、はっきりとした話し方で

高齢者は耳が聞こえにくい人が多いので、ゆっくり、はっきりと話すように心がけます。早口、大声、甲高い声でまくしたててないこと。その土地の方言でコミュニケーションをとることも大切です。

7 相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する

認知症の人は急かされるのが苦手です。同時に複数の問いに答えることも苦手です。相手の反応を伺いながら会話をしましょう。たどたどしい言葉でも、相手の言葉をゆっくり聴き、何をしたいのかを相手の言葉を使って推測・確認していきます。

地域での見守りが大事!

認知症高齢者見守り・声かけ訓練を実施

認知症高齢者が地域で行方不明になったときに、本人の気持ちに配慮した見守りや声かけを行う模擬訓練を昨年11月に野市町みどり野地区と香我美町岸本地区で行いました。

各地区の住民をはじめ、民生委員、グループホームの職員、認知症高齢者の家族会「明日葉会」、警察署、消防署、消防団などが参加。認知症高齢者役を町なかに配置し、5人ほどのグループごとに捜索、声かけ、保護の一連の流れを体験してもらいました。今後も各地区で開催していく予定です。



周囲の、さりげなく自然な声かけが その人を支える杖となります

認知症の人の数は高齢化の進展により平成37年には全国で約700万人前後になり、65歳以上高齢者の5人に1人になると見込まれています。認知症になっても、本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境に暮らし続けられるように、周囲の人がさりげなく自然な言葉かけをしてあげることが必要です。

認知症の人に接するときの

3 ない

1 驚かせない

2 急がせない

3 自尊心を傷つけない



認知症の 相談をしたい!

■心配ごとから支援まで幅広く対応します

香南市地域包括支援センター

(高齢者介護課内) ☎57-8511

介護に関する相談や、心配ごと、健康福祉、生活に関することなどに、保健師、社会福祉士、看護師、ケアマネージャーなど専門職が対応します。

■認知症カフェで交流しながらゆったりと

認知症カフェ ふれあい(市主催)

場所：のいちふれあいセンター1階第1ふれあい室
開催日：毎月第3水曜日(3月は第3火曜日)
開催時間：13時30分～14時30分
利用料金：100円(おやつ代)
問 香南市地域包括支援センター

縁えんカフェ(市委託)

場所：デイサービス縁(野市町西野584-1)
開催日：毎週日曜日
開催時間：10時～14時
利用料金：500円(ランチセット・ドリンク付)
問 デイサービス縁 ☎56-4270

認知症カフェは、認知症になっても皆が安心して地域で暮らせる為に、相談をはじめ、日頃から学んだり、予防したりする場(カフェ)です。介護をしている家族同士で、不安や疑問を語り合ったり、笑顔の糸口をみつけれませんか? 認知症の方、ご家族の方などなたでも利用できますのでお気軽にお越しください。